

第2弾！国家試験合格に対応できる、指導方法の紹介 ～現場教育指導者に絶対、必要な「五大学習指導」方法～

- ★ 前号では、【国家試験合格に結び付く、学習方法の紹介】を行ったが、今号では、【現場教育指導者に絶対、必要な「五大学習指導」方法】の基本知識を紹介する。
- ★ 日本人の多くの【教師像】は、「知らない学習者に物事を教える人」という、イメージを持っている。しかし、EPAの受験者は、母国で高等教育を受けて、専門知識を習得した人達であるために、成人教育として受験者対応をするべきだ。この理由から「教える」という姿勢では、十分な対応ができない。
- ★ 即ち、「一方的な教育方法」では、成人教育の学習は、「知的満足度」の面から心理的な反発が生じることとなる。よって、「暗記や覚えさせる教育方法」は、受験者の日本語に対する心理的な障害を創り出している最大の原因だと、認識すべきだ。
- ★ 「国家試験合格に結び付けるための指導方法」としては、受験者の言語能力を客観的に把握した上で、知的満足度を高めるためにも、「双方向教育」が、絶対必要不可欠だと、認識すべきだ。

I、【受験者の言語能力を整理整頓することが、絶対条件】

1. 前号57号(図1)で表した通り、受験者の頭の中では【共通の概念】は、母語では十分に理解できている。そのため、「語彙の説明」は不要で、「日本語音並びに、表記方法の規則性」が理解できれば良い。
2. その指導方法を本号図1【日本語教育の「五大要素」】に基づき指導すれば、受験者がその要素を理解して、【自学できる能力】を培養することができる。
3. 即ち、受験者の「大脳にある日本語を整理整頓すること」が、最も重要な指導方法となる。
4. 入職前までに、約1,700時間以上(月報44号参照)の教育を受けているが、その「教育の質の悪さ」のために、膨大な語彙量と日本語の知識が、「未整理のままに大脳の中で混在」している。
5. この事実を直視すると、「言葉の説明や観念的な教育」はしてはいけない。論理的な指導をしない限り、「知的満足度」を満たせず、効果が上がらない。
6. 教育指導者が図1の「五大要素」を理解した上で対応しなければ、受験者から逆に、教育の素人として軽視されてしまう。

図1、

日本語教育の「五大要素」

- 一、規則性を教える
- 二、用法性を教える
- 三、運用性を教える
- 四、活用性を教える
- 五、利用性を教える

II、【言語対応能力と応用能力が、教育指導者に必要だ！！】

1. 【言語対応能力】とは、まず、「音の規則性」を理解させ、次に、「同義語(和語・漢語・外来語)の用法」を規則性に基づいて理解させる能力をいう。さらに、環境や人間関係において、「言葉の使い分け方や、助詞の意義と用法」を規則性に基づいて理解させ、【言葉での気遣い】を養える能力も入る。
2. 日本人は場面を見ずに、音による言葉だけを聞き、「どんな人物が、どんな人物に発しているか」が想像でき、その状況を理解することができる能力がある。この能力を習得させる対応能力をいう。
3. 図2には【学習指導の「五大要素」】を表しているが、【言語対応能力】は「五大要素」の一、二、三にあたり、特に、「対応力と対応指導力」の違いがはっきり理解できていないと、指導上に混乱が生じると共に、教育効果も上がらない。
4. 「対応力」とは受動的なもので、相手の言動に対して、主に「肯定・否定・同調など」を表わして、会話を継続させる姿勢の能力をいう。
5. 「対応指導力」とは能動的なもので、相手の言動に対し、「正・誤・未知・誤解など」を正すと同時に、根拠を基に理解させる能力をいう。また、「知識を基盤とした指導力」をいう。

図2、【学習指導の「五大要素」】

- 一、対応力
- 二、対応指導力
- 三、指導力
- 四、理解指導力
- 五、統括力

III、【学習指導で最も重要な能力は、「統括力」だ！！】

1. 図2の五の「統括力」とは、図1の【日本語教育の「五大要素」】を全て熟知しており、それを使って学習指導に組み込む力だ。
2. 受験者の【自学能力】を培養させ、自ら専門領域の知識を習得し、国家試験対応能力が身につくように指導できる力のこと。
3. 最終目的は、「国家試験合格」だ。これを重要視する指導者ならば、図1と図2の「五大要素」は、熟知していて当然だ。
4. 合格できない最大の原因は、自称日本語教師が、「五大要素」の存在を知らず、「言葉の説明」に終始しているからだ。

IV、[具体的な学習指導の種類]

- ★ 外国語教育は、【易しいものから難しいものへ】の基本原則があり、これに沿って、指導しなければ教育効果を上げることはできない。
- ★ 図3は、一般と弊社の教育指導方法を比較した表だが、下段の三角形は、外国人の理解力の難易度を表したものだ。
- ★ この比較表からどちらの指導方法の方が、教育効果が上がるかが、判断できる。即ち、基本原則に沿った指導の方が、学習者にとっても、また、指導者にとっても、体系的で理解しやすい。
- ★ この基本原則に基づいた教材を、使用することが理想的で、指導者なしでも、学習できる能力【自学能力】を身につけられる。

A. <発声指導の例>

- 図4は学習指導上で、教師が常に使い分けて、学習の内容を理解させやすくするための発声。例えば、①「模範発声」とは、母語者の音を学習者に「正しい日本語音」として聞かせ、それを真似させることを目的とした発声だ。

図4、
「発声の種類」

- ① 模範発声
- ② 文型発声
- ③ 普通発声

B. <読み指導の例>

1. 図5は、日本語文を読み上げる場合に、学習者が「聞き理解（聴解力）」できる対応能力を養うために、使い分けする。
①「模範読み」とは、文章の内容によって、感情を含めたり、理解力を深めさせるために使う読み方だ。

図5、
「読みの種類」

- ① 模範読み
- ② 理解読み
- ③ 普通読み
- ④ 表現読み

C. <読ませ方指導の例>

1. 図6は、学習者に日本語文を読ませる時に、発声と体で「日本語文の読み方」を習得させる指導方法だ。
2. ①「なぞり発声読み」は、人差し指で文をなぞりながら発声する読み方で、
③「なぞり黙読」は人差し指でなぞり、口に出さずに目で追う読む読み方だ。

図6、
「読ませ方の種類」

- ① なぞり発声読み
- ② 発声読み
- ③ なぞり黙読
- ④ 黙読

D. <学習展開指導の例>

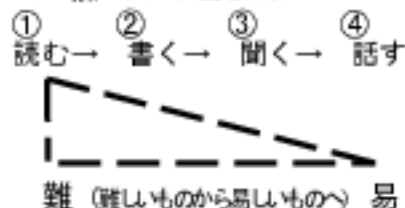
1. 図7は、学習を進める上で重要な展開方法だ。
一般の教育方法は、「一方向教育」が中心で、学習者にとっては、受動型教育となっている。
2. それが原因で学習意欲が減退したり、学習に集中できずに、無駄な時間を過ごしている受験者も多い。即ち、「授業内容に参加できず、知的満足も得られず」に、自ら言語障害者となっていく。
3. このような状態をなくすためには、授業のあり方を受験者参加型に、変えなければならないのは当然だ。その具体的な指導方法として、「問答三法」がある。

図7、
「問答三法」

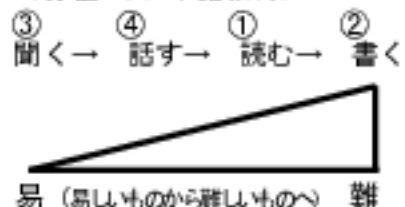
- ① 教師から質問し、学習者が答える問答
- ② 学習者から質問し、教師が答える問答
- ③ 学習者から質問し、学習者が答える問答
4. ①は一般教育の中で用いられる指導方法だが、弊社の教育指導方法は、基本的に②と③を使って、学習させることが多い。特に、②を使わせることで、学習者の「知的満足」を満たすが、指導者側がその対応に、耐えられる能力がなければだめだ。

図3、教育指導方法の比較表

<一般の日本語教育>



<弊社の日本語教育>



特報

教育指導者養成講座開設！！

- ※ 【国家試験対策情報（月報）】を発行して、既に4年以上が経過した。この間に、「受験者対応の仕方」や、「学習指導の仕方」などについて、全国から多くの質問を受けている。
- ※ その中で、『具体的な指導の仕方を教えてほしい』とか、『教育効果の上がる教え方を学びたい』などの声が届いている。
- ※ 弊社では、これらの読者の声を受けて、右記の内容で【教育指導者養成講座】を開催することとした。
- ※ 講座はスカイプで行い、1回の参加者は10名以内として、内容は具体的な【実践教授法】を、分かり易くご紹介する。

第一回、教育指導者養成講座
目的：日本語教育並びに、国家試験受験指導の専門家を養成し、国家試験合格者を出す。
内容：「概念論」による【実践教授法】を学び、具体的な教育効果と、指導方法を学ぶ。
期間：養成講座期間は約3か月間。週1回3時間、全12回。
費用：参加料18万円（教材費込）
人数：1回10名（先着順）

「スカイプ授業と、教育効果」を分かり易く紹介

ことばの研究社 EPA介護士学習支援情報

I、【スカイプ教育と対面教育の相違点】

「特徴1」 スカイプ教育は、対面式の間接教育

- 一方的な学習方法のEランニングとは違い、スカイプ教育は、双方向でやりとりができるために、受験者の疑問や質問に、すぐ対応でき、問題を積み残さずに学習レベルを高めることができるのが特徴だ。
- また、間接教育でありながら対面して、受験者の創造力や類推力を増加させ、より【自学能力】を養うことができる。そのために、直接的な対面教育よりは、確実に実力を養える方法だから、教育効果が高くなる。特に専門分野での学習には、より高い教育効果を導き出せるのも特徴だ。

「特徴2」 教師派遣の学習は、対面式の直接教育

- 直接教育が最も教育効果が高いと信じているために、教師派遣などを依頼して、学習をさせている所が多い。だが、直接教育の最大の弊害は、教師に対する依存が高まり、「答えを教師に求める傾向」が強くなるために、【自学能力】が養われない。
- ※ 弊社のスカイプ授業を受けた者は、到達度試験を並行して学習するために、【自学能力】が養われる。その結果、合格率が毎年80%以上に保たれている。

II、【空間教室と同一教室の教育効果の違い】

「特徴1」 空間教室の場合

- ここでいう空間教室とは、電波を使い一つの教室環境を整備した空間をいう。例えば、沖縄県と北海道と大阪の受験者が、「同時に同じ学習目標」に対し、スカイプで集合して、間接的に指導を受け、学習目標に到達する教育方法だ。

「特徴2」 同一教室の場合

- 同一教室とは、日本国内で行われている学校教育形態をいうもので、これを集約教育ともいう。即ち、多人数の学習者を相手に、同一の場所で対面教育を行い、直接指導のもとで、学習目標に到達させる方法だ。これを受動型教育という。
- 集約教育では【自学能力】を養うことが学習目的になっておらず、あくまでも、提示された知識に対する理解を促す教育方法だ。例を挙げれば、「専門学校や日本語学校に通学させた結果、教育効果が上がらなかった」などの反省の声が数多く聞かれる原因となっている。教育効果を上げるためには、受験者の言語能力に合わせた教育をしなければ、上がらないことを再度、認識すべきだ。



【教育の種類と難易度】

- 図1は、人間の理解度の仕方を表したものだ。一番容易な方法は、直接対面教育だ。しかし、学習者の能力に合せなければ、教育効果はない。また、個別の直接対面教育の場合でも、学習者の能力を把握した上での教育でなければ、効果はない。
- スカイプ授業の効果の高さは、図1でも理解できるように、学習者の能力を客観的に把握しながら、理解度に合せて【自学能力】を養う指導をするために、教育方法の中でも理想的な方法だ。

< 経験者の声 >

参加して、3ヶ月間で変化が！！

※「到達度試験」に参加して、受験者の意識が態度に表れる程の大きな変化に驚いた。一人は驚異的に能力が伸びた。もう一人も自分から進んで勉強するようになったので、安心だ。
(千葉県・T施設)

※「到達度試験」と自学教材を使い、学習し始めてから「語彙の理解・会話・日記」と、良い方向に変化が見られたので、現場の関係者も、驚いている。
(宮城県・K病院)

参加者急増！ 教育効果の高い、「スカイプ授業」

到達度試験参加者

合格率80%

- 合格率が高い理由
スカイプ授業で「自学の仕方」を学び、独学ができる能力を養うため。

- ※ 本「スカイプ授業」は、「学習支援金の範囲内」で参加可能。
- ※ ご希望の方は、お問い合わせ下さい。電話：086-431-3481

☆☆☆ 学習意欲が昂まる スカイプの強み ☆☆☆

1. Eランニングではできない「疑問点をその場で理解」できる。
2. 受験者の「聴解力と会話力」が身につく、受験能力が養える。
3. 瞬時反応能力が養え、「難解な熟語漢字対応能力」を養える。
4. 「読解力と構文力」が身につく、国家試験問題を解く力を養う。
5. 学習計画に基づいて、確実に「国家試験受験能力」が身につく。
6. 専門書で「専門知識」を身につけ、「国家試験合格能力」が養える。

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきど (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試2レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回～Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E～国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。 ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。 ④簡単な業務日誌が書ける。 ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。 ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。 ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。 ③自学で「過去問」を解ける。 ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①業務の実践力を養う。 ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。 ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。 ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。 ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。 ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。 ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職業言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		

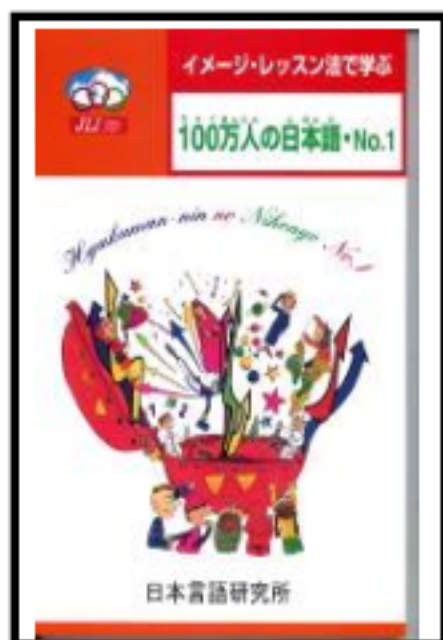
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・電話の問い合わせ先
ことばの研究社
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 8-4-12

学習支援 主教材

基礎言語能力レベル

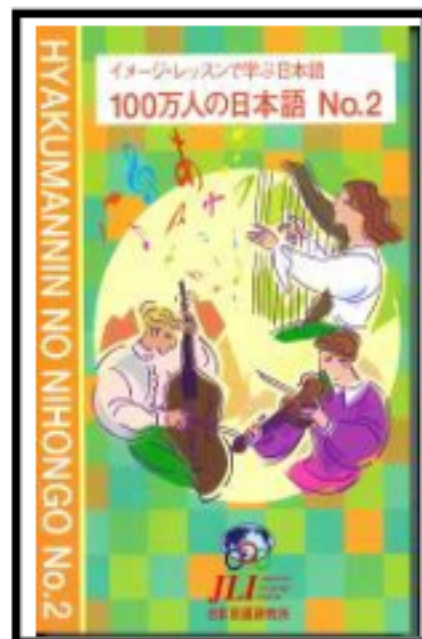


【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2,805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字

※ 習得語彙数 520 語～1560 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2,805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

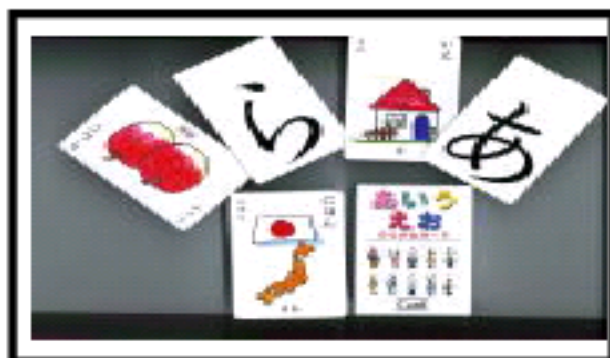
※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

使ってみてビックリ！
教育効果の高さ
学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。

イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。

(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。

(1,980 円)



『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。

非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。

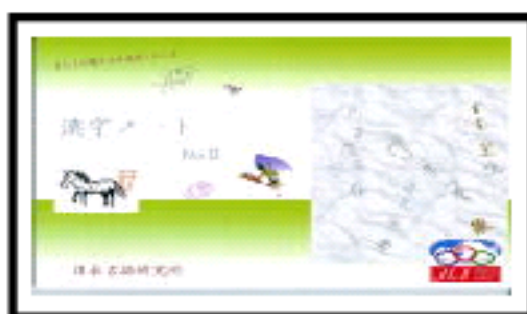
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が織り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその言出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。

漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。

非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。

また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)